

私、高橋政代は、アイセンター関連事業や網膜治療法を開発することを目的として株式会社ビジョンケア(VC')の経営に注力するため2019年7月31日をもって国立研究開発法人理化学研究所(以下、「理研」といいます。)のプロジェクトリーダー職を辞し、8月1日付で株式会社VC'の代表取締役社長に就任することになりました。

理研では今後も客員として、またアイセンター病院研究センターにおいても研究活動を継続しますが、今後は会社に軸足を移して網膜関連治療の実用化を目指します。

私がプロジェクトリーダーを務めた理研の網膜再生医療研究開発プロジェクトで、2014年に世界で初めて行ったiPS細胞由来網膜細胞移植は安全性の確認を第一とし、自家(患者さん本人)の細胞から作製した細胞を用いた、いわゆるオーダーメイド型の治療法でした。次に、安全性を保ちながらも、コストを低減するため、続いて2017年に実施した臨床研究で京都大学iPS細胞研究所(CiRA)にてドナーの細胞から作製された他家iPS細胞を用いました。その結果については、2019年4月に学会で発表した通りです。

一方、一般治療化に向けては、企業が治験を実施し承認を取得する必要があることから、先んじて会社を設立しようと考え、2011年に株式会社日本網膜研究所(現株式会社ヘリオス)をファウンダーの一人として設立しました。理研認定ベンチャーとして、iPS細胞由来網膜色素上皮(RPE)細胞作製の特許許諾を理研から受け、自ら資本金を拠出、取締役にも就任し、この会社を使って実用化を目指すつもりでした。

しかしながら、iPS細胞由来細胞移植が現実のものとなった際に、臨床研究の責任者となるために、利益相反があってはならないと考え、同社の経営から身を引くことにしました。苦渋の決断でしたが、同社の株式をすべて手放し、取締役も辞任した結果、私自身が同社の舵取りをすることは不可能となりました。

その後、日本網膜研究所はヘリオスへと社名を変更し、本社は東京へ移転、東京証券取引所に上場を果たし、米国のバイオベンチャーから導入した間葉系幹細胞製品の開発に注力する状況となりました。同社は既に、設立時に私が目指していた網膜疾患の治療をメインの事業とする会社ではなくなりました。同社とはその後も協業するチャンスがありましたが、既に私と同社の間には目指すべき科学レベルや運営方針に関する考え方の差が広がってしまっており、関わることはできないと判断いたしました。現在では、同社との共同研究もすべて終了しており、私とヘリオスとの間にいかなる提携関係も存在しません。また、株式会社VC'とヘリオスとの間で提携あるいは共同研究等を行う予定もありません。

以上の経緯で、私は理研のプロジェクトリーダー職を辞して株式会社 VC' に移籍し自ら様々な網膜治療開発を推進することを決意した次第です。会社の事業計画は追って発表する予定です。

今後も眼科医そして研究者としての知見を発揮し、患者にとって真に良いと思うことを実行するという信念を貫こうと考えています。皆様方におかれましては引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

2019年7月31日

高橋政代